

「令和7年度あやべ観光デジタルフォトコンクール」

総評：綾部市には、写真の題材となる自然や季節ごとに行われるイベントなど、カメラを向けるテーマにも恵まれ、幅広い年代層の皆さんから応募がありました。高度なテクニックを駆使して撮影された作品、スマートフォンを自由に使いこなしながら撮影を楽しんでいる若い世代の作品など251点の応募があり、画面から伝わる熱い思いを汲みながらの審査となりました。

中田昭（公社）日本写真家協会会員

大賞 綾部市長賞「夕暮れ時」

超ワイドレンズで捉えた夕暮れのコスモス畑。逆光で立体的に浮かんだ花と空のトーンなど、高度なテクニックで撮影されている。極め付けは、日没の太陽が花びらをかすめた瞬間に出た光芒に、この写真のすべての狙いが物語られている。

特選 綾部商工会議所賞「ブーケの贈り物」

目の前一面に広がる花火を花束のように重ねて、その色彩美を表現。橋のシルエットや川面に反射した光も効果的で、撮影前の計算が思い通り画面に反映されたのでは。

特選 綾部市文化協会賞「満開の樹の下で」

幹の根本に佇む少女達を祝福するかのように、青空をバックに、大木の桜が今を盛りとして花を咲かす。大胆に幹を左隅に配置したことで視線が人物に導かれ物語性が生まれた。

特選 京都新聞賞「森林浴でいい気持ち」

縦位置に構えて木々を強調し、樹間を走るランナーの息遣いまでも聞こえてくるようだ。待ち受けた？ランナーの赤いユニフォームがアクセントになっている。

特選 あやべ市民新聞社賞「花火を待つ」

青空に湧き出た力強い夏雲と3脚の椅子が、花火までの長い待ち時間を間接的に想像させた。羽を広げて飛ぶ一羽の鳥がタイミング良く画面に入り、アクセントとなった。

特選 京都府観光連盟賞「ふるさとの友と」

山上に出来たテラスから故郷風景を眺めていると「ことばを交わさなくても、さまざまな思い出が蘇ってくる」と思わせるような、のどかな秋の空気感が伝わってくる。

入選「シャボン玉に魅せられて」

たくさんのシャボン玉に大はしゃぎする子どもの声が聞こえて来そうな画面で、左の恐竜も雰囲気盛り立てている。

入選「古墳の夕暮れ」

黄昏色に染まる風景を背後にして、並んだ円筒埴輪から引く影がアクセントになって、悠久の時間を感じさせる。

入選「季節の真ん中で」

秋色の山川を背景にして、釣り橋中央の人物が、双眼鏡を覗いているのか？何かを叫んでいるのか想像を巡らせた。

入選「冬の日」

早朝のプラットフォーム。電車でどこへ向かおうとしているのか？昇り始めた朝日に目が向くと、自然と女性の表情が目に入って想像を巡らせた。

入選「夏と私と風車」

爽やかな夏の日。斜めにした画面もイヤミなく、多くの風車に目が惹きつけられ画面構成のうまさを感じさせた。

入選「暮れ行く上林川」

暮れ行く空の色を川面に映し、ススキなども入れて秋の季節感をうまく表現。ブルーになった背景の色彩との組み合わせも美しい。

入選「静寂を破る落雪」

落雪の瞬間を上手く捉えた作品で、背景の青空とのシンプルな組み合わせで音まで聞こえるような臨場感が生まれた。

入選「参道を彩る紅葉の帳」

鳥居と散り紅葉の色彩、風景を包む光も柔らかく美しく、日本の秋を象徴するような場面として捉えている。

入選「秋日和」

大胆に大木の紅葉を前面に入れながら、背景には柔らかい色調の山々。穏やかに過ごす秋の一場面が表現されている。

入選「夏の夜の輝き」

夏のライトアップを背景にした母子の仕草から、愛情の深さも感じさせた。

浴衣の模様も黒くなりすぎず、微かな色合も美しい。

入選「平和のモニュメント」

モニュメントに込められた平和への願いは、青空で一層強調されている。中央の球には、太陽と撮影者の姿も見える。